

皆様ご存知の通り、附属学校園では、様々な研究に取り組んでいます。しかし、保護者の皆様は、研究とはどのようなことをしているのか、分かりにくいところもあるのではないのでしょうか？そこで、『研究だより』を発刊し、本園が進めている研究活動を保護者の皆様にご紹介しています。

研究テーマ

遊びに生きる子どもを育む ～遊びの育ちを追いながら～

子どもの遊んでいる姿とは？

幼児教育において、遊びは、心身の発達の基礎を培う重要な学習として、位置付けられています。どのようなきっかけで、遊びが始まり、遊びがどのように変容していくのか、子どもたちの遊びを丁寧に見取っていきたくと考えました。

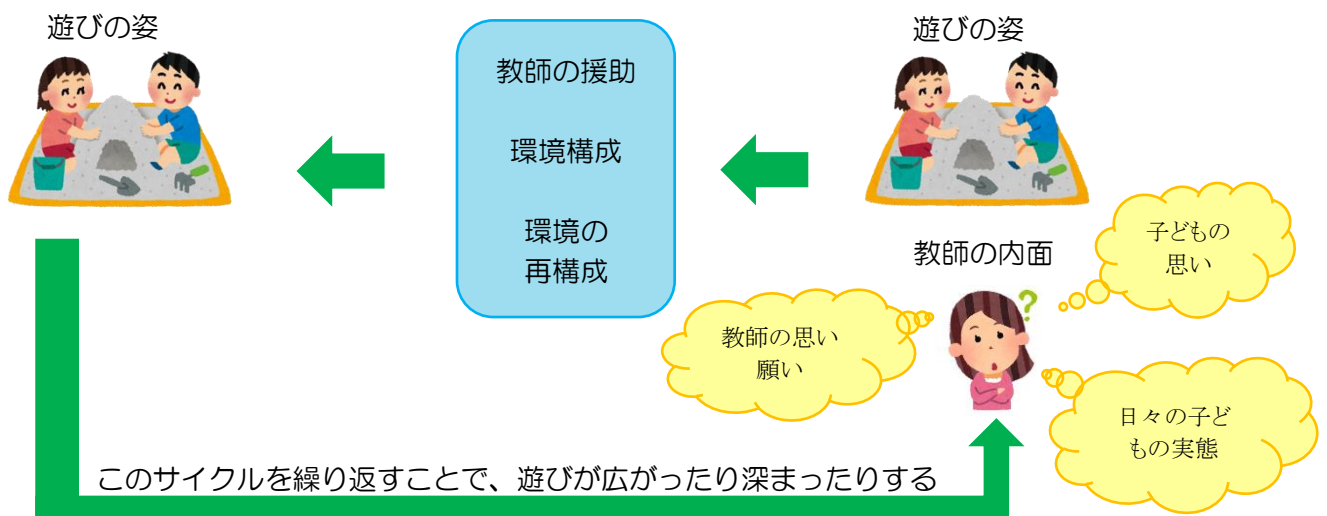
子どもたちにとっては、すべて遊びです。これらの遊びの何を捉えるかということ考えた時、私たちは幼稚園という集団教育の中で支えていきたい遊びを捉えていきたいと考えました。幼稚園という集団教育の中で支えていきたい遊びとは、人やものとの関わりの中で、広がったり深まったり、次へつながっていく遊びではないかと考え、そのような姿を研究の中で捉えていきたいと考えました。

遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成

2年次は、遊びが広がったり深まったりするための教師の援助や環境構成について研究を進めました。

教師は子どもの遊びの姿を捉える時に、どのようなことを考え、援助や環境構成を行っているのでしょうか。

教師が子どもの遊びの姿に出会った時、教師の内面では、「子どもはどんなことを楽しんでいるのだろう」「どんな思いをもっているのだろうか」などの子どもの思いや、「これまでの友達との関わりはどうだったかな」「これまでの遊びの姿はどうだっただろう」などの日々の子どもの実態を捉え、「こんな姿につながってほしいな」「こんな思いをもってほしいな」と教師の思いや願いを考えます。そして、数ある援助や環境構成の中から、子どもの次の姿につながるような教師の援助や環境構成を、時には迷いながら、考え行なっていきます。このサイクルを繰り返すことで、遊びが広がったり深まったりするのではないかと考えます。



そして、遊びが広がったり、深まったりしていく過程が遊びの育ちであり、遊びの育ちの中で様々な子どもの育ちが見られるのではないかと考えました。

日々の保育の中で

3年次は、日々の子どもの遊びの姿から、遊びの育ちや子どもの育ちを捉えました。ここでは各年齢の遊びの一場面を紹介します。

3歳児



クリスマスケーキのトッピングをしよう

クリスマスパーティには、キラキラがいるの



この葉っぱを使ってトッピングしたい

入園当初より、様々なものを見立てたり、場面をイメージしながら遊んだりすることを繰り返し楽しんだことが、自分なりの思いをもったり、イメージを広げたりしながら見立てることを楽しむ遊びにつながりました。ここでの子どもの育ちを、自分なりの思いやイメージをもって遊ぼうとする、遊びに必要なものを自分で選んだり、探したりして、遊びに取り入れようとする、と捉えました。

4歳児



どうやってやるの？

僕の砂はサラサラだよ



どっちが高いかな？

砂場の山づくりから、「大きな山」という同じ目的をもつことで、「自分たちの山(場所)」と感じられる遊びとなりました。また、友達と存分に関わることで、「また一緒にしたい」と思う遊びとなりました。ここでの子どもの育ちを、継続して遊ぶ、友達に思いを伝えながら遊ぶ、友達から聞いたことを真似る、知っていることを試す、「こうしたい」とこだわりをもって遊ぶ、と捉えました。

5歳児



ここに貼っておくね

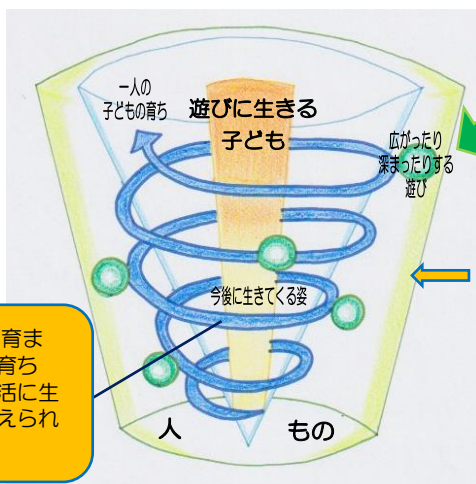
倒れそうだね、支えておくね



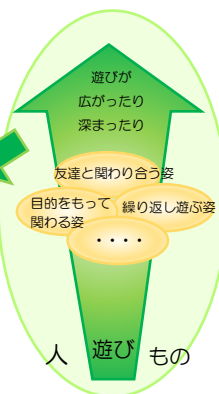
もっと大きくしよう

お化け屋敷づくりの遊びから、みんなで入って遊べる大きなお化け屋敷をつくりたいという思いをもつことで、協力しながらつくりあげる遊びとなっていきました。ここでの子どもの育ちを、遊びに必要なものをつくったり、繰り返し試したりする、イメージや考えを伝える、ものの形や性質などに関心をもち遊びに取り入れる、友達と一緒に目的をもって取り組む、集団の中で自分の役割に気付く、と捉えました。

遊びに生きる子どもとは？



遊びの中で育まれた子どもの育ちが、今後の生活に生きてくると考えられる。



遊びは人やものなどの環境と関わる時に生まれると考えます。その遊びが広がったり深まったりしていく中で、様々な子どもの育ち見られます。遊びの中で育まれた子どもの育ちが、今後の生活に生きてくるという体験を繰り返すことで、「遊びに生きる子ども」も少しずつ育まれていくのではないかと考えます。

3年間の研究を通して

「遊びに生きる子どもを育む」～遊びの育ちを追いながら～というテーマのもと、研究を進め、子どもの遊びの姿や子どもの思いを教師が丁寧に捉え援助や環境構成を行うことが、遊びの育ちや子どもの育ちにつながるということが分かりました。

子どもの育ちを保障することが、今後生きてくる姿につながり、遊びに生きる子どもを育むことができるのだと考えます。

今後も、子どもの遊びの姿や子どもの思いを丁寧に捉え、教師が願いをもって援助や環境構成を行いながら、遊びに生きる子どもを育む保育を進めていきたいと思ひます。